



2024年12月期 決算短信〔IFRS〕（連結）

2025年2月13日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888
定時株主総会開催予定日 2025年3月25日 配当支払開始予定日 2025年3月26日
有価証券報告書提出予定日 2025年3月26日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期の連結業績（2024年1月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期	31,090	13.0	2,805	42.7	2,629	38.3	2,270	8.9	2,500	18.3	2,281	10.5
2023年12月期	27,514	24.7	1,965	△2.9	1,901	△12.6	2,084	12.2	2,114	12.6	2,065	10.5

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後 1株当たり当期利益	親会社所有者帰属持分 当期利益率	資産合計 税引前利益率	売上収益 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年12月期	133.01	133.01	11.9	6.5	9.0
2023年12月期	113.17	113.17	11.0	7.1	7.1

(参考) 持分法による投資損益 2024年12月期 947百万円 2023年12月期 1,337百万円

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期	54,274	21,939	21,933	40.4	1,165.46
2023年12月期	27,215	19,519	19,957	73.3	1,080.22

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年12月期	2,349	△3,904	582	4,110
2023年12月期	1,072	665	△1,192	5,084

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2023年12月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年12月期	—	0.00	—	20.00	20.00	369	17.7	1.9
2024年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00	188	7.5	0.9
2025年12月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00		14.5	

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,000	12.6	1,500	△46.5	1,300	△48.0	69.08

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社TYG商事

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 17「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2024年12月期	18,967,410株	2023年12月期	18,967,410株
2024年12月期	148,224株	2023年12月期	492,181株
2024年12月期	18,802,387株	2023年12月期	18,687,220株

(参考) 個別業績の概要

2024年12月期の個別業績（2024年1月1日～2024年12月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期	1,089	△1.5	△121	—	△157	—	△172	—
2023年12月期	1,106	181.6	297	—	297	—	283	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期	△9.18	—
2023年12月期	15.17	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
2024年12月期	19,838	76.9	15,354	76.9	—	—	810.53	
2023年12月期	16,620	93.2	15,589	93.2	—	—	838.33	

(参考) 自己資本 2024年12月期 15,253百万円 2023年12月期 15,488百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 8「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	7
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	7
(4) 今後の見通し	8
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	9
3. 連結財務諸表及び主な注記	10
(1) 連結財政状態計算書	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	12
(3) 連結持分変動計算書	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(会計方針の変更)	17
(セグメント情報等)	18
(1株当たり情報)	23
(重要な後発事象)	23

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があり、先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、状況に応じて機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

総合エンターテインメント事業では、アイドルグループやバンドなどの所属アーティストによる大型イベントの開催やライブ・ツアーなどのほか、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存のテレビ番組制作の安定的な進捗のほか、特番として放送されていた番組がレギュラー化されたことに加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件が公開されるなど順調に推移しており、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作が進捗しております。

広告代理店事業につきましても、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を中心に各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めました。

このような中、株式会社ノース・リバー（以下「NR」という。）において、主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ（以下「TA」という。）の株式の51%を2024年1月1日付けで取得したほか、bijoux株式会社（以下「BJ」という。）による、大型の新人発掘オーディションを開催し、約7,000名の応募の中から最終的にグランプリを含めた5名の新人が当社グループ内に所属いたしました。

このほか、2024年1月26日付け「株式会社トポスエンタープライズの民事再生支援についての意向表明に関するお知らせ」及び4月30日付け「(経過開示) 株式会社トポスエンタープライズとの民事再生支援に関するスポンサー契約締結のお知らせ」ならびに8月9日付け「(経過開示) 株式会社トポスエンタープライズとの民事再生支援に関するスポンサー契約締結における未確定事項に関するお知らせ」のとおり、10月1日付けで、運送事業や倉庫事業を展開する株式会社トポスエンタープライズ（以下「TPO」という。）を連結子会社化しております。

以上の結果、当連結会計年度における業績は、売上収益31,090百万円（前期比+13.0%）、営業利益2,805百万円（前期比+42.7%）、税引前利益2,629百万円（前期比+38.3%）、親会社の所有者に帰属する当期利益2,500百万円（前期比+18.3%）となりました。なお、営業利益のうち、トポスのグループインに伴う会計処理により、識別可能な無形資産の評価など公正価値で測定された純資産額が支払対価を上回った負ののれん発生益2,551百万円を含んでおります。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト及びNRや株式会社A. M. EntertainmentならびにBJなどが、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動実績は、後記「別表①(主要アーティスト活動状況)」のとおり順調な積み上げを図っております。

そのほかのアーティストやタレントの活動においては、e t-アンドー、若月佑美、小栗有以、生駒里奈、鈴木絢音、古畑奈和、江籠裕奈、北野瑠華、高畑結希、秋好美桜、山本かりんなどが、ドラマや情報番組への出演のほか、各種イベント、アニメや企業とのタイアップ企画、写真集の出版など、様々な方面で活躍いたしました。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、主にTAが、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションゲームアプリの企画・開発・運営を行っております。2025年4月にリリースから9周年を迎える乃木坂46公式の「乃木恋」や、日向坂46公式の「ひなこい」、櫻坂46公式の「サクコイ」など、所謂坂道グループの公式ゲームアプリ等に係る業務を行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益14,383百万円(前期比+27.1%)、セグメント利益589百万円(前期比△72.3%)となりました。同セグメントにおきましては、TAのグループインにより売上収益は増加しているものの、同社における売上計画を含めた計画値との乖離幅が大きく、併せて売上原価率の上昇に伴う粗利率の悪化により、TAにおいて営業損失174百万円を計上いたしました。これに加え、同社の取得時に計上しておりましたのれんの一部を筆頭に、他のグループ会社における業績動向ならびに次年度以降の計画などを見直したことにより、一部固定資産なども合わせた847百万円の減損処理を実施したことが、同セグメントの利益を前期比大きく押し下げる要因となりました。

〔映像制作事業〕

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONS(以下「UP」という。)及び株式会社m a c a r o n iが既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び製作を行っております。映像制作における主な成果(レギュラー化やドラマ、映画製作等)は、後記「別表②(主な制作実績)」のとおりであります。

また、株式会社T e c h C a r r y(以下「TC」という。)で展開しております、機材レンタル事業やデジタイズ事業につきましては、着実に実績を積み上げており、TCが行っておりました映像編集作業を行うポストプロ事業につきましては、UPのポストプロ事業部と事業統合するなど、組織体制の変更により収益の改善・効率化にも努めました。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況を踏まえた人材の安定雇用に伴う人件費の増加により、利益率が下がっている状況にあるものの、引き続き堅実に実績を積み上げております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益6,738百万円(前期比+0.3%)、セグメント利益154百万円(前期比△19.0%)となりました。なお、レギュラー番組では、安定的な稼働を継続し、売上収益では堅調に推移しております。一部の番組では制作に係るコストコントロールが効果的に効き始めたものの、人件費の増加に伴う利益率の悪化や、T O K Y O R O C K S T U D I O株式会社(以下「TRS」という。)に紐づく海外案件やドラマ及び映画製作等の大型案件を獲得するためのロビー活動などに係る先行費用を計上していることに加え、当該案件の進捗状況が当初の予定から来期以降にズレ込みましたことなどにより、前期比で減益となっております。

〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。株式会社allfuzにて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブン-イレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施いたしました。広告代理店事業における主な実績は、後記「別表③(実施案件)」のとおりであります。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益7,919百万円(前期比△15.5%)、セグメント利益174百万円(前期比△37.5%)となりました。主要広告クライアントとの取り組みにおいては、好採算案件の獲得が順調に推移し、アフィリエイト広告の分析・運用などを担うメディア事業部門でも、運用の見直しやコスト改善を図りました。しかし、デジタル広告部門における主要取引先である男性用脱毛サロンが関係する業界全般で、広告出稿の在り方が見直される動きが想定以上に大きく、長期化したことにより、前期比で減益となりました。

〔その他事業〕

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業及び10月1日から物流事業を展開するTPOがグループインしたことにより、当該会社の3か月分の実績を取り込んでおります。

以上の結果、売上収益2,049百万円(前期は売上収益104百万円)、セグメント利益2,780百万円(前期はセグメント利益18百万円)となりました。

なお、TPOのグループインに伴う会計処理により、識別可能な無形資産の評価など公正価値で測定された純資産額が支払対価を上回った負ののれん発生益2,551百万円を含んでおります。

別表①(主要アーティスト活動状況)

アーティスト名	実施時期	内容:備考欄
SKE48	1月12日～ 3月26日	プリマステラ「世界ぶりまちゃんず計画 ～大人だけどぶりちいもん!～編」4都市10公演
	2月27日	TBS「PLAYLIST」
	2月28日	32nd シングル「愛のホログラム」リリース
	3月8日	フジテレビ「オールナイトフジコ」
	4月15日	NHK WORLD-JAPAN「J-MELO」
	5月5日	Hello Music Festival Theater&Live -SKE48-
	7月6日～ 8月3日	「SKE48 SUMMER Tour 2024」6都市14公演
	7月13日	TBS「音楽の日2024」
	8月2日	TOKYO IDOL FESTIVAL 2024 supported by にしたんクリニック
	8月8日	8期生8人の8周年コンサート♡ぱちぱちぱーちい♡
	8月10日	テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATION 音楽LIVE
	9月14日	@JAM EXPO 2024 supported by UP-T
	10月2日	33rd シングル「告白心拍数」リリース
	10月5日	「SKE48 16周年特別公演」
	10月12日～14日	「SKE48 16th Anniversary Festival 2024」
	10月18日	フジテレビ「オールナイトフジコ」
	10月29日	TBS「PLAYLIST」
	11月8日	フジテレビ系音楽情報番組「Tune」連動イベント「IDOL SQUARE 6」
11月28日	Revolver One man live「Remember me」	
12月17日～22日	SKE48 シャッフル公演	
乃木坂46	1月25日～27日	34th シングルアンダーライブ 3公演
	3月7日～10日	12th YEAR BIRTHDAY LIVE 4公演
	4月10日	35th シングル「チャンスは平等」リリース
	5月11日、12日	山下美月卒業コンサート
	6月7日～9日	35th シングルアンダーライブ 3公演
	6月28日	香港ライブ
	7月6日	日本テレビ系「THE MUSIC DAY」
	7月13日	TBS「音楽の日2024」

	7月21日～ 9月4日	真夏の全国ツアー2024 7公演
	8月21日	36th シングル「チートデイ」リリース
	10月7日～ 11月20日	36th シングルアンダーライブ 5会場11公演
	11月2日、3日	超・乃木坂スター誕生! LIVE 3公演
	11月20日	テレビ東京「テレ東音楽祭スペシャル」
	11月23日	NHK「Venue101」
	11月30日	日本テレビ「ベストアーティスト2024」
	12月4日	フジテレビ「2024FNS 歌謡祭 第1夜」
	12月11日	37th シングル「歩道橋」リリース
	12月14日、15日	乃木坂46 大感謝祭2024 2公演
	12月27日	テレビ朝日「ミュージックステーション SUPER LIVE 2024」
	12月31日	NHK総合「第75回NHK紅白歌合戦」 TBS「CDTV ライブ!ライブ! 年越しスペシャル2024→2025」
Novel bright	1月21日	FUKUOKA MUSIC FES. 2024
	2月21日～ 3月12日	NOVELCITY CARNIVAL Vol. 4 3都市3公演
	3月16日	めざましテレビ30周年フェス in 東京
	3月30日	SAPPORO MUSIC EXPERIENCE 2024
	4月3日	Major 3rd Full Album「CIRCUS」& Blu-ray &DVD「Novelbright LIVE TOUR 2023 ～ODYSSEY～ FINAL SERIES』at 横浜アリーナ リリース
	4月6日～ 11月15日	「Novelbright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～」 26都市29公演スタート
	4月12日	日本テレビ系「バズリズム02」
	5月3日	JAPAN JAM 2024
	5月12日、19日	TOKYO&OSAKA METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2024
	5月24日、31日	フジテレビ「コラボレーションOCTPATH」
	6月22日	GREEN FLASH FES 2024
	7月13日	DAIENKAI 2024
	7月14日	LuckyFes`24
	7月20日	OSAKA GIGANTIC MUSIC FESTIVAL 2024
	8月10日	ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024
	8月23日	Novelbright×Eric Nam 「Everywhere I Go」配信リリース
	8月24日	MONSTER b a S H 2024
	8月25日	10th WILD BUNCH FEST. 2024
	9月14日	Novelbright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～ in T a i p e i
	9月21日	ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024 in HITACHINA KA
	9月22日	イナズマロック フェス 2024
	10月26日、27日	Novelbright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～ in S e o u l
	11月6日	第21回東京国際ミュージック・マーケット
	11月10日	SUPERPOP JAPAN 2024
	11月23日	読売テレビ「音道楽√」
	12月7日	TOHOKU MUSIC JOURNEY 2024
	12月30日	COUNTDOWN JAPAN 24/25

別表② (主な制作実績)

分類	放送・公開 開始日等	番組名 (補足)
バラエティ	1月6日	NHK総合「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」(新春SP)
	1月7日	TBS「オールスタードッキリ祭」4時間SP(特番)
	1月9日	フジテレビ「今夜はナゾトレ川柳四天王2024VS新世代!川柳下剋上SP!」
	2月9日	Netflixコメディシリーズ「トークサバイバー!~トークが面白いと生き残れるドラマ~」のシーズン3が制作決定。制作プロダクションとして参画
	3月19日	テレビ東京「何を隠そう…ソレが!」が4月24日からレギュラー化決定
	4月6日	TBS「オールスター感謝祭2024春」5時間半SP(特番)
	5月29日	フジテレビ「FNS鬼レンチャン歌謡祭」3時間半SP(特番)
	9月3日~	Netflixコメディシリーズ「トークサバイバー!ラスト・オブ・ラフ」が世界独占配信開始
	9月10日	J:COM「花火のギモン」が第50回日本ケーブルテレビ大賞 番組アワードにて審査員特別賞を受賞
	9月11日	「トークサバイバー!ラスト・オブ・ラフ」が日本のNetflix週間TOP10(シリーズ)第1位を獲得!
	10月5日	TBS「オールスター感謝祭'24秋」5時間半(特番)
	12月16日	テレビ朝日「25周年!とんねるずのスポーツ王は俺だ!!現役選手&スポーツ関係者300人が選ぶ スーパースターだらけの伝説名勝負ベスト25」
	12月31日	TBS「大晦日オールスター体育祭」(年末特番)
ドラマ	1月26日~ 3月29日	TBSドラマ「不適切にもほどがある!」放送
	4月13日~ 6月16日	テレビ朝日「あなたの恋人、強奪します。」放送
	4月6日~	WOWOW「TOKYO VICE」シーズン2配信開始。7月にロケーションにおける世界的な賞のひとつ「第11回LMGI Awards」にノミネート
	5月31日	ドラマ「不適切にもほどがある!」第61回ギャラクシー賞テレビ部門特別賞を受賞!
	7月3日~ 9月11日	テレビ東京「ひだまりが聴こえる」放送
	11月1日~	WOWOW 連続ドラマW-30「ハスリンボーイ」放送
	11月4日~ 1月6日	読売テレビ「未成年~未熟な俺たちは不器用に進行中~」放送
映画	3月8日~ 公開終了	映画「マイホームヒーロー」全国公開
	8月1日	TOKYO ROCK STUDIO制作、映画「WHAT DIVIDES US(原題)」の制作(2025年)が決定!
	9月6日	長崎が舞台、映画「いろは」の制作を発表
	10月11日~ 公開終了	映画「若き見知らぬ者たち」全国公開
	10月11日	阿部寛主演 映画「SHOWTIME 7」が2025年2月7日から全国で公開中!
	11月22日	映画「おいしくて泣くとき」2025年4月4日から全国公開決定!

別表③ (実施案件)

EC販売・ キャンペーン等開始日	案件名
1月4日～	「CHINTAI」の新CM 他(僕が見たかった青空)
2月20日～	小栗有以 オリジナルバスソルト付きカレンダー (予約開始)
2月21日～	TOKYO INDIE GAMES SUMMIT 2024 グッズ販売 (予約開始)
2月23日～ 3月31日	LIVE EMPOWER CHILDREN 2024 コンテンツプリント
3月29日～	Bistro NAOTO
4月19日～	沖縄SV コーヒー豆2種&ミルセット (予約開始)
7月29日～	「佐野史郎」企業メッセージ公開
7月26日～	土井レミイ杏利×白鶴酒造コラボ「レミたんブラー」 (予約開始)
8月8日	SKE48 8期生8人の8周年コンサート♡ぱちぱちぱーち♡×アトリオン製菓 《パチパチパニック》
8月17日	柴田直人(ANTHEM) Bistro NAOTO 第2弾ガッデム町中華カレー
8月30日～	足立佳奈 岐阜県産の「龍の瞳」&美濃焼きオリジナルお茶碗セット (予約開始)
8月31日～	TinyTAN 3Dシリコンワッペン POPUP STORE
9月30日～	ビクターロック祭り2024 オフィシャルグッズ販売
10月4日～	純烈 in 日本武道館「純烈魂」オフィシャルグッズ販売 第1弾
10月24日～	純烈 in 日本武道館「純烈魂」オフィシャルグッズ販売 第2弾
11月7日	宙の鳴き声 オフィシャルグッズ販売
11月8日～	go!go!vanillas オフィシャルグッズ販売
11月15日～	SEVENTEEN オフィシャルライセンスグッズ販売
12月13日	若月佑美 YUMI WAKATSUKI 2025CALENDAR
12月13日	若月佑美 YUMI WAKATSUKI 2025CALENDAR発売記念グッズ

※販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当連結会計年度の積み上げ案件を列举しております。

※広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べて27,058百万円増の54,274百万円となりました。これは主として有形固定資産、投資不動産及びその他の金融資産が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて24,639百万円増の32,334百万円となりました。これは主として社債及び借入金、営業債務及びその他の債務、その他の金融負債が増加したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて2,419百万円増の21,939百万円となりました。これは主として親会社の所有者に帰属する当期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ973百万円減少し4,110百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,349百万円の資金の増加(前期比+119.0%)となりました。これは主として税引前利益の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,904百万円の資金の減少(前期は665百万円の資金の増加)となりました。これは主として定期預金の払戻による収入があった一方で、投資不動産の取得、被担保債権の取得及び連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、582百万円の資金の増加(前期は1,192百万円の資金の減少)となりました。これは主として利息及び配当金の支払、長期借入金の返済、リース負債の返済、子会社の再生債務弁済による支出により資金が減少した一方で、自己株式の売却及び長期借入れによる収入により資金が増加したことによるものであります。

(4) 今後の見通し

2025年12月期における通期連結業績予想につきましては、売上収益35,000百万円、営業利益1,500百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,300百万円と見込んでおります。売上収益につきましては、2024年10月1日付けで物流事業及び倉庫事業等を展開しているTPOを連結子会社化しており、同社収益の年間寄与により前期比+12.6%程度の増収を見込んでおります。営業利益以降につきましては、2024年12月期に計上いたしました、TPOの取得に伴う負ののれん発生益2,551百万円を計上したことなどにより、前期比では△46.5%程度の減益を見込んでおります。

各セグメント別の取り組み事項は以下のとおりであります。

〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手等の様々な活動を通して、引き続き多くのファンの皆様にご支援いただけるプロダクション運営を行ってまいります。

2025年12月期における大型イベント等につきましては、乃木坂46が1月28日から30日に「37thSGアンダーライブ」を実施したほか、2月22日と23日に「与田祐希卒業コンサート」を、5月17日と18日には味の素スタジアムでは初開催となる「乃木坂46 13th YEAR BIRTHDAY LIVE」を予定しております。SKE48は、1月1日に12年ぶりの新チーム発表をして、4月1日からの本格始動へ向けて準備を進めております。このような状況下、日々の劇場公演の開催のほか、2月18日に「末永桜花卒業コンサート」の開催を、3月12日には34枚目のシングル「Tick tack zack」のリリースを予定しております。Novelbrightにつきましては、同グループ初の全国アリーナツアーとなる「Novelbright ARENA TOUR 2025 ～Winding Road～」を、7会場10公演で予定しております。同ツアーの表題曲となる新曲「ワインディングロード」は、1月17日(金)放送スタート、テレ東ドラマ9「法廷のドラゴン」の主題歌であるほか、ミュージックビデオは俳優の玉木宏さんを監督に迎えて制作されており、引き続き各種メディアとの取り組みも強化しております。

俳優やタレント等につきましては、若月佑美や生駒里奈、小栗有以、古畑奈和、高畑結希、北野瑠華などの活動の充実を図っているほか、BJにおいては、秋好美桜が1月9日(木)放送スタート、テレビ朝日木曜9時ドラマ「プライベートバンカー」へ出演するなどしており、引き続き活躍する場の拡大に努め、オーディションなどを含む新規コンテンツの発掘と開発にも注力してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、当期の業績結果を受けまして、コスト面も踏まえた体制の見直しや、運営するゲームアプリの選択と集中による収益力の改善に努めるほか、開発リソースや既存事業とのグループシナジーによる展開及び発展を図ってまいります。

〔映像制作事業〕

現在の主流であるバラエティ番組では、自社の企画・制作力を活かして獲得したレギュラー番組14件の制作に携わった実績が放送各局でも評価されたことから、年々レギュラー放送の本数も増加させており、引き続き着実に実績を積み上げてまいります。

映画製作では、製作委員会への出資により携わっている、阿部寛主演の映画「SHOWTIME 7」が2月7日(金)から全国公開されているほか、当社グループ所属の横尾初喜が監督を務めた、長尾謙杜(なにわ男子)初主演映画「おいしくて泣くとき」が4月4日(金)から全国公開を予定するなど、様々な案件に携わることで、着実に実績を積み上げてまいります。

新規事業の分野では、TRSが映像制作現場のバックオフィス業務を担う制作経理業務の展開による実績も積みあがってきており、グローバル向け作品の企画・制作案件である映画「WHAT DIVIDES US(原題)」の製作にも、引き続き携わってまいります。

今後も業況に合わせた社内体制や予算管理体制の更なる強化を図り、映像制作におけるノウハウと人材派遣で培った多くの制作会社や各放送局、各種配信プラットフォーム等とのリレーションを活かし、グローバル向け作品の企画・制作を推進することで、更なる収益構造の強化を目指します。

なお、テレビ局によるコンプライアンス等の問題に関しましては、現時点でUPの業績に与える影響などはございません。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告部門におきましては、YouTubeをはじめ、TikTokやInstagramなどのSNS関連のデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開していくほか、新たな分野にも裾野を広げることで、業容の拡大を図ってまいります。

広告代理店部門におきましては、前期より継続している大手証券会社における大型広告案件のほか、セブン-イレブン・ジャパンを中心に優良案件を獲得していくことに加え、所属或いは関係するアーティストなどの広告案件を含めた各種活動を、引き続きサポートしてまいります。また、既存のグループ内コンテンツを活用した各種イベントの企画・提案・運営を行っており、商業施設におけるライブ開催や、SNSとの連動企画等を通して、様々な企業との取り組みを展開してまいります。

今後につきましても、イベントの企画・提案・開発のほか、企画に基づく商品企画のマネタイズもできる等、クライアントの要望を一手に引き受けられるノウハウを背景に、大手企業やスポーツチーム、著名アーティスト等とのタイアップを行い、グループの強みを生かした積極的な営業戦略によって、大小を問わず様々な案件に携わることで、事業規模の拡大に努めてまいります。

〔物流事業〕

主に、TPOにおいて商品・商材を全国に運搬する運送事業、全国のパチンコホールが保有する機械台や商品を預かる倉庫事業に加え、お菓子や日用品を中心とした卸売事業を展開しております。

運送事業では、千葉本店、埼玉支店、大阪支店の主要3拠点を中心に展開しておりますが、全国の配送会社との強固なパートナーシップにより、全国への配送を可能とする流通ルートを有しております。倉庫事業では、パチンコホールの遊技台を中心に15万台以上の保管能力を有し、独自の最新管理システムによって、「利便性」「品質管理」「安全性」の3つの価値を提供することで、まずは急拡大を急がず、安定的な事業展開を図ってまいります。

なお、2024年12月期時点では、その他事業の一部としてご報告しておりますが、2025年12月期第1四半期より「物流事業」として、セグメントを別けてご報告をいたします。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上等を目的として、2019年3月期より国際財務報告基準(IFRS)を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当連結会計年度 (2024年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	5,084,034	4,110,927
営業債権及びその他の債権	3,651,230	4,636,082
その他の金融資産	987,390	688,444
棚卸資産	386,769	543,162
その他の流動資産	231,197	442,097
流動資産合計	10,340,622	10,420,713
非流動資産		
有形固定資産	937,604	23,226,335
のれん	5,218,852	5,637,795
無形資産	1,571,345	1,251,003
投資不動産	934,961	3,300,604
持分法で会計処理している投資	7,042,877	7,785,152
その他の金融資産	699,641	2,287,326
繰延税金資産	317,144	233,186
その他の非流動資産	152,287	131,912
非流動資産合計	16,874,715	43,853,316
資産合計	27,215,337	54,274,030

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当連結会計年度 (2024年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,195,710	4,576,764
社債及び借入金	881,502	1,205,913
その他の金融負債	642,872	2,494,758
未払法人所得税等	25,594	188,182
引当金	99,757	139,705
契約負債	319,850	286,972
その他の流動負債	292,729	560,145
流動負債合計	5,458,017	9,452,443
非流動負債		
社債及び借入金	1,081,517	3,123,483
その他の金融負債	690,691	17,916,328
長期従業員給付	178,504	455,706
引当金	151,956	908,245
繰延税金負債	135,086	478,757
非流動負債合計	2,237,756	22,882,521
負債合計	7,695,774	32,334,964
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,667,114	14,200,758
自己株式	△440,809	△132,744
その他の資本の構成要素	73,945	73,121
利益剰余金	5,564,566	7,699,478
親会社の所有者に帰属する持分合計	19,957,267	21,933,064
非支配持分	△437,703	6,001
資本合計	19,519,563	21,939,065
負債及び資本合計	27,215,337	54,274,030

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
売上収益	27,514,247	31,090,423
売上原価	22,957,822	25,962,230
売上総利益	4,556,425	5,128,192
販売費及び一般管理費	3,855,544	5,014,948
持分法による投資利益	1,337,784	947,775
その他の収益	60,636	2,617,990
その他の費用	133,869	873,631
営業利益	1,965,432	2,805,378
金融収益	8,604	21,561
金融費用	72,053	197,110
税引前利益	1,901,983	2,629,828
法人所得税費用	△182,357	359,045
当期利益	2,084,340	2,270,783
当期利益の帰属		
親会社の所有者	2,114,874	2,500,983
非支配持分	△30,533	△230,200
当期利益	2,084,340	2,270,783
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益	113.17	133.01
希薄化後1株当たり当期利益	113.17	133.01

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
当期利益	2,084,340	2,270,783
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	△19,242	△1,306
確定給付型退職給付制度の再測定額	—	12,346
純損益に振り替えられることのない項目合計	△19,242	11,039
税引後その他の包括利益	△19,242	11,039
当期包括利益	2,065,098	2,281,823
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	2,095,631	2,512,023
非支配持分	△30,533	△230,200
当期包括利益	2,065,098	2,281,823

(3) 連結持分変動計算書

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日時点の残高	92,450	14,660,367	△94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	△395,376	17,994,471
当期利益					2,114,874	2,114,874	△30,533	2,084,340
その他の包括利益				△19,242		△19,242		△19,242
当期包括利益合計	—	—	—	△19,242	2,114,874	2,095,631	△30,533	2,065,098
新株予約権の行使				△440		△440		△440
剰余金の配当					△188,365	△188,365		△188,365
自己株式の取得		△1,706	△384,513			△386,220		△386,220
自己株式の処分		4,760	38,360			43,120		43,120
支配継続子会社に対する持分変動		3,694				3,694	△11,794	△8,100
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				7,031	△7,031	—		—
所有者との取引額合計	—	6,747	△346,153	6,591	△195,396	△528,211	△11,794	△540,005
2023年12月31日時点の残高	92,450	14,667,114	△440,809	73,945	5,564,566	19,957,267	△437,703	19,519,563
当期利益					2,500,983	2,500,983	△230,200	2,270,783
その他の包括利益				11,039		11,039		11,039
当期包括利益合計	—	—	—	11,039	2,500,983	2,512,023	△230,200	2,281,823
連結子会社の増加による非支配持分の増加						—	211,102	211,102
剰余金の配当					△369,504	△369,504		△369,504
自己株式の取得			△2,514			△2,514		△2,514
自己株式の処分		△2,297	310,579			308,281		308,281
支配継続子会社に対する持分変動		△464,057		△8,430		△472,488	462,802	△9,685
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				△3,432	3,432	—		—
所有者との取引額合計	—	△466,355	308,064	△11,863	△366,071	△536,225	673,904	137,678
2024年12月31日時点の残高	92,450	14,200,758	△132,744	73,121	7,699,478	21,933,064	6,001	21,939,065

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	1,901,983	2,629,828
減価償却費及び償却費	1,012,459	1,548,171
減損損失	104,333	847,363
負ののれん発生益	—	△2,551,970
受取利息及び受取配当金	△5,631	△7,899
支払利息	45,993	175,857
持分法による投資損益(△は益)	△1,337,784	△947,775
固定資産売却損益(△は益)	△2,558	△431
固定資産除却損	322	16,325
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	24,517	2,332
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△158,560	333,899
棚卸資産の増減額(△は増加)	63,050	17,144
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	114,076	206,568
契約負債の増減額(△は減少)	△124,619	△153,584
預り金の増減額(△は減少)	△31,796	83,233
引当金の増減額(△は減少)	80,357	△43,342
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	32,458	18,416
その他	44,138	21,387
小計	1,762,740	2,195,524
法人所得税等の支払額	△786,159	△35,650
法人所得税等の還付額	96,412	189,794
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,072,993	2,349,668
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△40,000	450,000
有形固定資産の取得による支出	△113,616	△154,524
有形固定資産の売却による収入	2,558	1,373
無形資産の取得による支出	△412	△5,540
投資不動産の取得による支出	—	△1,885,577
投資有価証券の取得による支出	—	△6,000
投資有価証券の売却による収入	100,788	4,363
出資金の払込による支出	△19,797	△47,175
保険積立金の積立による支出	△84,455	△83,833
敷金保証金の差入による支出	△163,266	△115,220
敷金保証金の回収による収入	175,567	143,036
資産除去債務の履行による支出	△2,065	△24,050
利息及び配当金の受取額	795,631	377,143
関係会社貸付けによる支出	—	△121,000
短期貸付金の純増減額(△は増加)	—	△150,000
被担保債権の取得による支出	—	△1,548,092
事業譲受による収入	11,798	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,017,553
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	388,620
持分法で会計処理している投資の取得による支出	—	△164,500
その他	2,371	53,745
投資活動によるキャッシュ・フロー	665,101	△3,904,784

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△5,176
長期借入れによる収入	950,000	3,303,000
長期借入金の返済による支出	△973,255	△1,249,641
社債の償還による支出	△28,000	△28,000
自己株式の取得による支出	△384,513	△2,514
自己株式の売却による収入	—	309,841
利息及び配当金の支払額	△218,385	△507,137
リース負債の返済による支出	△571,540	△752,607
新株予約権の行使に伴う収入	42,680	—
子会社の再生債務弁済による支出	—	△458,506
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による 支出	△8,100	—
その他	△1,715	△27,247
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,192,830	582,009
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	545,264	△973,107
現金及び現金同等物の期首残高	4,538,770	5,084,034
現金及び現金同等物の期末残高	5,084,034	4,110,927

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループの連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当社グループは、当連結会計年度より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	負債の流動又は非流動への分類に関する要求事項を明確化 特約条件付の長期債務に関する情報の開示を要求する改訂
IAS第7号 IFRS第7号	キャッシュ・フロー計算書 金融商品：開示	サプライヤー・ファイナンス契約の透明性を増進させるための開示を要求する改訂
IFRS第16号	リース	セール・アンド・リースバック取引の取引後の会計処理を明確化

上記基準書の適用による連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報等)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- 「総合エンターテインメント事業」：タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理
ゲームアプリ事業など
- 「映像制作事業」：各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など
- 「広告代理店事業」：タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。

なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	11,318,396	6,719,928	9,371,424	27,409,749
セグメント間収益	56,662	7,318	181,117	245,098
合計	11,375,058	6,727,247	9,552,541	27,654,848
セグメント損益(注)3 (営業利益)	2,125,094	190,431	279,007	2,594,533

金融収益

金融費用

税引前利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	104,497	27,514,247	—	27,514,247
セグメント間収益	—	245,098	△245,098	—
合計	104,497	27,759,345	△245,098	27,514,247
セグメント損益(注)3 (営業利益)	18,752	2,613,286	△647,854	1,965,432

金融収益

8,604

金融費用

72,053

税引前利益

1,901,983

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
セグメント資産	11,266,353	3,878,542	2,505,979	17,650,876
セグメント負債	3,376,011	1,782,206	973,292	6,131,510
その他の項目				
減価償却費及び償却費	693,507	143,587	45,768	882,863
減損損失	104,333	—	—	104,333
持分法で会計処理している投資	7,042,877	—	—	7,042,877
資本的支出	28,725	77,256	7,730	113,712

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
セグメント資産	1,242,810	18,893,686	8,321,650	27,215,337
セグメント負債	513,798	6,645,309	1,050,465	7,695,774
その他の項目				
減価償却費及び償却費	49,908	932,772	79,686	1,012,459
減損損失	—	104,333	—	104,333
持分法で会計処理している投資	—	7,042,877	—	7,042,877
資本的支出	—	113,712	3,909	117,621

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント損益の調整額△647,854千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産及びセグメント負債並びにその他項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社分等であります。

3. セグメント損益は、連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	14,383,525	6,738,417	7,919,325	29,041,268
セグメント間収益	78,794	13,992	110,374	203,162
合計	14,462,320	6,752,409	8,029,700	29,244,430
セグメント損益(注)3 (営業利益)	589,054	154,309	174,443	917,808

金融収益

金融費用

税引前利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	2,049,154	31,090,423	—	31,090,423
セグメント間収益	—	203,162	△203,162	—
合計	2,049,154	31,293,585	△203,162	31,090,423
セグメント損益(注)3 (営業利益)	2,780,011	3,697,820	△892,441	2,805,378

金融収益

21,561

金融費用

197,110

税引前利益

2,629,828

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
セグメント資産	12,492,349	4,294,187	2,151,069	18,937,606
セグメント負債	4,904,282	1,786,849	998,954	7,690,086
その他の項目				
減価償却費及び償却費	858,446	161,729	56,341	1,076,516
減損損失	847,363	—	—	847,363
持分法で会計処理している投資	7,619,879	165,272	—	7,785,152
資本的支出	1,441,976	67,840	1,361	1,511,179

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
セグメント資産	26,704,577	45,642,183	8,631,846	54,274,030
セグメント負債	20,946,194	28,636,281	3,698,683	32,334,964
その他の項目				
減価償却費及び償却費	396,397	1,472,914	72,257	1,548,171
減損損失	—	847,363	—	847,363
持分法で会計処理している投資	—	7,785,152	—	7,785,152
資本的支出	7,069,942	8,581,122	4,355	8,585,477

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び物流事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント損益の調整額△892,441千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産及びセグメント負債並びにその他項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社分等であります。

3. セグメント損益は、連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	当連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (千円)	2,114,874	2,500,983
希薄化後1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益 (千円)	2,114,874	2,500,983
発行済普通株式の加重平均株式数 (株)	18,687,220	18,802,387
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加 (株)	—	—
希薄化後の普通株式の加重平均株式数 (株)	18,687,220	18,802,387
基本的1株当たり当期利益 (円)	113.17	133.01
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	113.17	133.01
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり当期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 251,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 251,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)

(注) 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、基本的1株当たり当期利益と同額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。